

恵みの時に (P1)

(コリント人への手紙第二6:1-2)

おはようございます！

今日で2021年も2か月が過ぎ去ります。寂しい感じもありますが、明日から生命感溢れる3月に入ります。3月にも、教会の皆様、主のみ恵みが与えられることを信じて感謝致します。

今日、愛する皆様と共に、”恵みの時に”と言うタイトルで、み言葉を分かち合いながら主に栄光を捧げたいと思います。与えられたみ言葉は、[コリント人への手紙第二6:1-2](#)です。私は、土浦めぐみ教会に来て、まだ、6か月しか経たないのですが、このみ言葉は、皆様と分かち合いたい箇所でありました。それでは、お読み致します(P2)。

[\(6:1\) 私たちは神とともに働く者として、あなたがたに勧めます。神の恵みを無駄に受けないようにしてください。](#)

[\(6:2\) 神は言われます。「恵みの時に、わたしはあなたに答え、救いの日に、あなたを助ける。」見よ。今は恵みの時、今は救いの日です。](#)

コリント人への手紙第二は、使徒パウロが、コリント教会で起こっている問題、即ち、信者間の法的訴訟、また、神様から頂いた賜物の悪用、イエス様の復活に対する不信仰などに対する、正しい答えと教訓を与える為に書いた書物です。そして、偽預言者が現れて、パウロの使徒的な権威に挑戦しながら、信者たちを惑わせているのを見て、第3次宣教旅行中のマケドニアで書いた書物でもあります。

一方、2節の、「[恵みの時に、わたしはあなたに答え、救いの日に、あなたを助ける。](#)」と言うみ言葉は、紀元前約700年、預言者イザヤを通して、分裂イスラエル時代の南ユダ王国に与えられた、主の憐みのメッセージでもあります。(P3) [イザヤ書49:8-10](#)を見ると、

[\(49:8\) 主はこう言われる。「恵みの時に、わたしはあなたに答え、救いの日に、わたしはあなたを助ける。わたしはあなたを見守り、あなたを民の契約とし、国を復興して、荒れ果てたゆずりの地を受け継がせる。](#)

[\(49:9\) わたしは捕らわれ人には『出よ』と言う。闇の中にいる者には『姿を現せ』と言う。彼らは道すがら羊を飼い、裸の丘のいたるところが彼らの牧場となる。\(P4\)](#)

[\(49:10\) 彼らは飢えず、渇かず、炎熱も太陽も彼らを打たない。彼らをあわれむ者が彼らを導き、湧き出る水のほとりに連れて行くからだ。](#)

即ち、このみ言葉は、アブラハムとの約束によってカナンに入ったイスラエル民族が、主からの律法を守らなく絶えず罪を犯した結果、バビロンの捕囚になりますが、主のみ恵みによって、70年後にエルサレムに帰還されることを預言したものであります。

使徒パウロは、[コリント人への手紙第二6:2](#)で、”[見よ。今は恵みの時](#)”と訴えています。

ます。恵みの時、即ち、恵みの時代とは、一般的に、イエス・キリストの誕生から、ペンテコステと大患難に至るまでの時代を指しています。従って、私たちが住んでいる今も、恵みの時代に入ります。一方、ペンテコステによってこの世に生まれたのが教会ですから、今は、恵みの時代であり、また、教会の時代でもあります。特に、聖書の時代区分の中で、恵みの時代は時間的に長いです。その理由は、この時代がいつまで続けられるかは、神である主以外には誰も分かりませんが、恐らく、底知れない主の憐みによるものであると思われるからです。即ち、一人でも多くの人々が、主が創造者、救い主、大審判者であることを認め、最後の時に、完全に回復された神の国に入るのを、主が、忍耐強く待ち望んでいらっしゃるからであります。

ご存知のように、新旧約聖書66巻の主な内容は、創造者である主が、罪によって最初の神に国であるエデンの園から追い出された、アダムと、その子孫であるアブラハムと神の国の回復のために交わした契約の物語りです。また、新しい契約、即ち、イエス・キリストの血潮によって贖われた人々が、最後の大審判を乗り越えて、神の国に入ることを待ち望んでいらっしゃる憐みの主と、人間との愛憎の物語りでもあります。

ここで、神の国の建設計画の初めと終わりに対するみ言葉を確認して見ます。まず、天地創造の後、完全な愛の関係を持った神は、被造物である人間から永遠に栄光を頂くために、エデンの園でアダムと契約を結びます。(P5)それが、[創世記1:28~29](#)で、

(1:28)神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。「生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。」

(1:29)神は仰せられた。「見よ。わたしは、地の全面にある、種のできるすべての草と、種の入った実のあるすべての木を、今あなたがたに与える。あなたがたにとってそれは植物となる。」

と仰せられました。しかし、人であるアダムとエバは、サタンの誘惑に落ち、神様との最初のたった一つの契約を破って、エデンの園から追放されます。その時、(P6)主は[創世記3:22-24](#)を通して、

(3:22)神である主はこう言われた。「見よ。人はわれわれのうちのひとりのようになり、善悪を知るようになった。今、人がその手を伸ばして、いのちの木からも取って食べ、永遠に生きることがないようにしよう。」(P7)

(3:23)神である主は、人をエデンの園から追い出し、人が自分が取り出された大地を耕すようにされた。

(3:24)こうして神は人を追放し、いのちの木への道を守るために、ケルビムと輪を描いて回る炎の剣をエデンの園の東に置かれた。

と仰せられました。その後、憐みの主は、エデンの園から追い出された人間が悔い改めて、神の国に入ることを望んで、歴史の中で人間の良心と国家統治に頼って神の国を回復しようと試みます。しかし、アダムの子孫は、物質文明に頼って、都市と国家を造りながら自

分なりのパラダイスを求めますが、肉体を持っている人間の罪はさらに重ねられ、罪悪は限りなく増大します。それで、主は、人を造ったことを悔みながら、ノア時代に、大洪水で罪の世界を裁かれます。その後は、方向を変えて、アブラハムと三つの祝福の契約を、また、モーセに律法を与えて神の国の回復を図ります。それでも、サタンの仕掛けと人間の信仰の弱さによって、神様の人類救援計画は無駄になります。それで、神様は、最後の手段として、救い主イエス・キリストの十字架を通して、人間の罪を贖うと共に、神の国を完全に回復させるための働き手として聖霊を送って、私たちに恵みの時代を与えて下さいます。その結果、罪深い世の中で、主のみ教えに生き尽くした信仰者は、いつか必ず訪れる携挙と大患難、そして、千年王国と大審判を通り抜いて、神の国に入る特権を頂きます。(P8)このような最後の約束は、ヨハネの黙示録22:12-14に記されている、

(22:12)「みよ。わたしはすぐに来る。それぞれの行いに応じて報いるために、わたしは報いを携えて来る。」

(22:13)わたしはアルファであり、オメガである。最初であり、最後である、初めであり、終わりである。」(P9)

(22:14)自分の衣を洗う者たちは幸いである。彼らはいのちの木の実を食べる特権が与えられ、門を通して都に入れるようになる。」

と言うみ言葉です。そうです。サタンの誘惑から自分の衣を洗い続けた結果、神の国の門を通して都に入れる勝利の信仰者には、いのちの木の実を食べる特権が与えられ、主と共に永遠に生きる栄光を頂きます。

ここで、本文に戻りますが、新約の時代に入って使徒パウロは、地中海の貿易の中心地として偶像崇拜の町であるコリント地方の、コリント教会の人々に(P10)、

<コリント人への手紙第二6:1-2>

(6:1)私たちは神とともに働く者として、あなたがたに勧めます。神の恵みを無駄に受けないようにしてください。」

(6:2)神は言われます。「恵みの時に、わたしはあなたに答え、救いの日に、あなたを助ける。」見よ。今は恵みの時、今は救いの日です。」

と訴えています。これは、(P11)コリント教会に対する訴えですが、よく考えてみると、混沌の罪の世界で地球終末への残り時間がわずか100秒しか無いことを心配しながら、2021年を生きている人々にも当てはまる訴えです。また、イエス・キリストの儀の実に満たされ、神の栄光と誉れのために恵みの時代に生かされている、私たち信仰者に対する訴えでもあります。

それでは、2,000年前に、使徒パウロによって、「神の恵みを無駄に受けないようにしてください。」と訴えられた初代教会の聖徒たちは、どのような信仰生活をしたでしょうか。(P12)それは、使徒の働き2:42-47に、

(2:42)彼らはいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをして

いた。

(2:43) すべての人に恐れが生じ、使徒たちによって多くの不思議とするしが行なわれていた。(P13)

(2:44) 信者となった人々はみな一つになって、一切の物を共有し、

(2:45) 財産や所有物を売っては、それぞれの必要に応じて、皆に分配していた。(P14)

(2:46) そして、毎日心をつにして宮に集まり、家々でパンを裂き、喜びと真心を持って食事をともにし、

(2:47) 神を賛美し、民全体から好意を持たれていた。主は毎日、救われる人々を加えて一つにしてくださった。

と、記されています。初代教会の聖徒たちに、この様な信仰生活が出来たのは、教会が、イエス・キリストの血潮によって立てられたからだと思われます。即ち、教会はキリストの体であり、私たち一人一人はキリストの体の小さな一部分であるから、聖徒たちは、キリストの栄光のために集い、分かち合い、学び、仕え合うことが求められています。一方、聖徒たちのこの様な働きは、聖霊からの賜物でもあります。

この様な訳で、サタンに支配されているこの暗闇の世界には、人々を神の国に入れようと努めている教会が沢山あります。ここで、日本と韓国の教勢を見ますと、(P15)日本は、プロテスタントだけで210教団に、7,427個の教会があります。また、韓国は、大型6教団だけで34,000個の教会があると報告されています。しかし、この中で、主の御心に相応しい宣教の働きを、変わらず、成し遂げている教会は、どの位あるのでしょうか？

ここで、大変恐縮な話ですが、私は小学生の時から教会に通いました。しかし、自分なりに信仰者としての教会生活は、恐らく、約40年位になると思われます。そして、その間に、引越しや教会内の問題などによって、日・韓合わせて6ヶ所の教会を通ったことがあります。そのお陰で、神様のみ旨に相応しい教会に対して、直接あるいは間接的に色々教えられました。

一般的に、自分が大切に持っている品物、通っている教会、学校、会社、住んでいる国などの価値とか位置付けを評価するとき、他の物と比較しないと正確な判断を下すことは難しいと言われてます。勿論、教会の場合に、その究極的な判断は主のものですが、自分の真実な信仰生活のためには、神様に愛されている教会を自ら探し求めなければならぬと思います。その理由は、2,000年前のコリント教会がそうだったように、今も、教会の中に、羊の衣を着ている貪欲な狼のような偽預言者が沢山いるからであります。

ここでまた、多変失礼でなおかつ愚かな質問ですが、皆さんは、今、(P16)信仰生活をしている土浦めぐみ教会をどのような教会であると思われますか？ 私は、まだ、6か月しか経たないんですが、一言で言うと、この教会にお導いて下さった主の恵みに感謝しております。それは、私が今まで、理想的だと思って探し求めた教会がここだからです。そして、この様な判断に対する根拠は、聖霊様が土浦めぐみ教会に与えて下さった教会の理念にあります。即ち、その理念が、まず、聖書信仰に立ち、全人類的、全生涯的、全地域的において、教会員一人一人が福音を味わいながら、真実なクリスチャンとして感謝と喜びを持って心強く生きられる、信仰共同体を求めているからであります。

即ち、御霊と真心を持って捧げている礼拝は勿論、様々な段階の信仰教育と開かれた幅広い交わりを通して、教会員が神の国の民として成長させられているからです。そればかりではなく、四つの教会付属事業を通して、救い主イエス・キリストの御名を地域に延べ伝え、神の国を拡張させる地域宣教の働きが行われているからです。何よりも望ましいことは、この働きが、牧会者と教会員によって、個人の誉も名も求めなく、緻密に行われていることです。勿論、この様なシステムを与えて下さった方は、教会の頭である聖霊です。そして、一粒の種を惜しまなく土浦の土地に蒔いた、開拓当時の宣教師たちの尊い献身によるものです。また、小松時代を含めて67年間に渡る、先輩信仰者たちの数え切れない、献身によるものであると信じます。ここで、一人のクリスチャンとして、ここまで成し遂げて下さった神の御業に感謝致します。

一方、世の中の大多数の教会は、神様のみ旨に相応しい教会として成長し、神様のみ名が褒めたたえることを切に求めています。しかし、教会内の偽預言者、イエス様との初恋の熱情を失った指導者、地に落ちてでも死ななく一粒のまま高ぶっている信仰者がいるから、実のある教会は、それ程多くありません。そればかりではなく、韓国の場合には、最近、教会内の様々な問題によって、ナンクリスチャンから嫌われている教会が段々増えている状態です。

その結果であると思われませんが、(P17)韓国の主要6教団は、2004年から2018年までの15年間で、教会員が128万人(約16%)減少しました。しかし、これとは反対に、教会数は8,218個(約25%)、牧会者は27,613人(約55%)増えました。この様なおかしい現象が現れた理由は色々考えられますが、結果的に、韓国の教会は段々と大型と小型の二元化を見せています。(P18)一方、日本の場合にも、ご存知のように、2011年からは教会員が伸びなく、高齢化と共に教会学校及び青年会の離脱によって、週日礼拝者は、少しずつ低下して行く様子を見せております。何よりも、大きな問題は、出席教会員数が20人以下の、非自立教会が全教会の65%にも達すると言う報告です。恐らく、この様な小型教会では、週日礼拝と食事を伴う交わり以外に、他の宣教の働きはほとんど出来ない状態にあると思われれます。従いまして、土浦めぐみ教会の救霊活動に対する神様のご期待が、どんなに大きな物であるか、皆様は、お気づきになされると思われれます。

この様な日韓教会の環境の中でも、クリスチャンと一般人からも称賛を受けている教会も多くあります。その中で、韓国の場合に、私が覚えている教会は、(P19)『南ソウル恩恵教会』です。この教会は、それぞれの南ソウル教会と恩恵教会が一つになって、去年、25周年を迎えました。この教会は、別の礼拝本堂を持たなく、発達及び知的障害者のための学校である「밀알学校」の体育館を使って礼拝を捧げています。そして、障害人の完全な社会統合を目標とし、社会的に弱い人たちの権利と人間らしい生活を支援する、社会福祉法人である(P20)「밀알福祉財団」を運営しています。ここで、「밀알」という文字は、「一粒の麦」という意味です。この財団は、1979年に出発し、2015年には、UNESCOから特別協議的地位を頂き、宗教、国籍、人種、政治的理念を超えた宣教活動を行っています。「밀알福祉財団」の2020年の予算は、約60億円で、この中の31億円は遺産ギブ委員会が管理する後援献金によるものでした。即ち、「밀알福祉財団」の働きに感動しているクリスチャンが、人生の旅路を終える前に、救い主イエス・キリストに捧げた献金

です。一般的に、宣教の働きのために、教会の中に色々な委員会が設けられていますが、遺産ギブ委員会があるのは本当に珍しいです。

実は、約4か月前、私は、教会敷地内のさつま芋畑で、ある教会員の方に、駐車場の両サイドにある田んぼのことを聞きました。そして、いつかは、あの田んぼを購入すべきですよ、と私の希望を話しました。それは、今の敷地と空間だけでは、教会で行われている様々な宣教の働きの質と量を引き上げるのに、制限があると思ったからです。そして、”土浦めぐみ教会に遺産ギブ運動を引き起こして、あの田んぼを購入したいですね”と独りごとを言いました。自分勝手な想いですが、これは、御霊のお導きの中で交わされた話しであったと信じています。

(P21)これは、何を示している物でしょうか？ そうです、土浦めぐみ教会の上高津時代の敷地の年度別の変化を示しているものです。御覧のように、敷地の形がすこし面白いのです。ご存知のように、駐車場の両サイドには、宣教の働き手の足跡を待っている田んぼがあります。また、(P22)これは、何を示している物でしょうか？ そうです、1986年から2020年までの礼拝などの出席数の変化を示しているグラフです。2011年からは平らになっていますが、1986年から2011年までは、ほぼ指数関数的に増加していることがわかります。これは、主の恵みです。そして、日本の他の教会ではほとんど見られないグラフです。ご存知のように、土浦めぐみ教会は、所属教団である日本同盟基督教団の中で教会員が一番多い教会です。まだ、土浦めぐみ教会出身の教会員はどの教会に転入されても、真実なクリスチャンとしての特権と責任を立派に果たしている、見習うべき信者であると言われていています。これも、また、主の恵みです。

教会の月報である、”めぐみ”に、ある教会員の方が書かれた、「I Have a Dream」と言う記事の中で、一部分を紹介します。私には夢があります、それは、いつかの日か、土浦めぐみ教会から宣教師を送り出すという夢です。私には夢があります、それは、いつかの日か、土浦めぐみ教会が、この地域に暮らす全ての人にとっての憩いの場、避けどころとなるという夢です。私は、これ以外にも、皆さんには、いつかの日か、土浦めぐみ教会が、神に喜ばれる、そして、地域の人々に愛される、地上での神の国を創り上げる夢を持っていらっしゃると思っております。

地域教会の主な働きは、テサロニケ人への手紙第一4章に記されている様に、私たちが神のラッパの響とともに天に引き上げられる、即ち、携挙の前に、救い主イエス・キリストが王である神の国を、それぞれの地域に建設することにあると思われまます。神に呼び出され私たちクリスチャンは、世にあっては寄留者です。試練も苦難も避けられません。しかし、来たるべき神の国では、永遠の相続地が約束されています。また、クリスチャンは、旅人です。旅人が放浪者と違うのは、帰るべき故郷が約束されていることです。だからこそ、困難の中でも、信仰の旅を味わい、楽しんで行くことができると思われまます。

信仰は、将来に希望を置き、今に向き合う力です。だから、私の罪のため十字架で死んで復活されたキリストは、再び来られます。主イエスの福音だけが救いの道であり、キリストの再臨だけが、今の恵みの時代を生かされている私たちの確かな希望です。

使徒パウロは、(P23)いつか、この世の人生の道のりを終えて、神の国へ行きたいと思っているコリント教会の信者に、

<コリント人への手紙 第二4:16-18>

(4:16) ですから、私たちは落胆しません。たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。

(4:17) 私たちの一時の軽い苦難は、それとは比べものにならないほど重い永遠の栄光を、私たちにもたすのです。(P24)

(4:18) 私たちは見えるものではなく、見えないものを留めます。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠に続くからです。

と、勇気つけてくれました。また、使徒パウロは、主の御恵みによって、上高津に立てられて、今年35年、そして、これから40年、50年を迎えながら、(P25)いつかの日か、神に喜ばれる、地域の人々に愛される、地上での神の国を建設しようとする愛する兄弟姉妹に、次の様に訴えています。

<コリント人への手紙第二6:1-2>

(6:1) 私たちは神とともに働く者として、あなたがたに勧めます。神の恵みを無駄に受けないようにしてください。

(6:2) 神は言われます。「恵みの時に、わたしはあなたに答え、救いの日に、あなたを助ける。」見よ。今は恵みの時、今は救いの日です。

(P26) <お祈り>

完全に回復された神の国を待ち望んでいらっしゃる天の父なる神様、尊いみ名を賛美致します。

私達は、全日本教会員のただ0.001%に過ぎない小さい群れですが、全能の神様が共にして下されば、この上高津の地に、主に喜ばれる、そして、地域の人々に愛される、地上での神の国を立てられると信じています。

願わくは、土浦めぐみ教会を通して、日本の民衆が救われますように、そして、救い主イエス・キリストのみ名が褒め称えられますように、忠実な僕である私たち一人ひとりを用いてください。

生きていらっしゃる全能の主イエス・キリストの御名によってお祈り致します。